

平成 27 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業の受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成 21 年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、平成 27 年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 受賞者及び受賞論文について

(1) 岩手県知事賞（2 件）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	ふくおか たくや 福岡 拓也	東京大学大気海洋研究所	三陸沿岸域に夏期限定で来遊するア オウミガメ
一般の部	わがわ たく 和川 拓	国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所	岩手県沖合域の水塊変動と沿岸域の 表面水温の予測可能性

(2) 特別賞（3 件）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い
内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	たかはし きげん 高橋 希元	東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科	ツノナシオキアミとスケトウダラす り身混合による新規練り製品原料の 開発
一般の部	なかむら いつみ 中村 乙水	東京大学大気海洋研究所	マンボウは潜ってクダクラゲ類を食 べ海面で温まる
一般の部	よねざき しろう 米崎 史郎	国立研究開発法人 水産総合研究センター 国際水産資源研究所	漁業および調査データを活用した三 陸沖生態系の長期変動傾向の抽出と 構造把握に関する研究

2 表彰式について

(1) 日時 平成 27 年 12 月 17 日(木) 14:20~14:40

(2) 場所 エスポワールいわて 3 階 特別ホール

3 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業について

(1) 対象研究

ア 海洋生物、海洋環境など、広く海洋に関するものであること。又は、水産資源の増養殖
や加工、漁業経営など、広く水産振興に関するものであること。

イ 岩手県三陸海域（内水面及び陸域を含む。）を実地調査したものであること、又は同海域
における水産業復興に資するものであること。

(2) 応募資格

日本国内の大学等に在学するもの又は研究機関に所属する若手研究者。

(3) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会（別添名簿）において、論文及び口頭発表の審査によ
り受賞者を決定。

(4) 応募状況

学生の部 2 名、一般の部 9 名 計 11 名

【担当 科学技術担当 安彦 内線 5252】

(参考資料)

平成 27 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業 受賞者一覧

1 岩手県知事賞 (2件)

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
福岡 拓也	東京大学大気海洋研究所	三陸沿岸域に夏期限定で来遊するアオウミガメ
【論文要旨】 温帯域である三陸沿岸域のアオウミガメの回遊パターンを明らかにするために、混獲調査・標識再捕獲調査・衛星追跡を行った。その結果、当海域は未成熟個体にとっての夏期限定の採餌場であり、2011年の津波後も来遊している事がわかった。また、放流後は南の越冬地まで500 km以上の回遊を行う事も判明した。本研究は、主に熱帯・亜熱帯域に生息するアオウミガメが季節的に温帯域まで来遊する事を北太平洋で初めて報告したものである。		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
和川 拓	国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所	岩手県沖合域の水塊変動と沿岸域の表面水温の予測可能性
【論文要旨】 2006年(2010年、2012年)の冬季(秋季)に観測された異常低温(高温)が沖合域の亜表層帯における親潮水(津軽暖流水)の、広範囲で厚い分布量に起因していることを明らかにした。これらの結果より、ワカメなどの養殖管理に重要な三陸沿岸域の冬季(秋季)の海面水温を1ヶ月前(1.5ヶ月前)の道東沿岸域の海面流速(津軽海峡を跨ぐ水位差)から予測する手法を開発した。		

2 特別賞 (3件)

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
高橋 希元	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科	ツノナシオキアミとスケトウダラすり身混合による新規練り製品原料の開発
【論文要旨】 市場価値の低いツノナシオキアミの有効活用と、岩手県水産業への貢献を目的とし、本種の練り製品原料適性について検討した。未処理のオキアミは加熱ゲルを形成せず、練り製品原料として適さないことが示唆された。一方、加熱処理したオキアミは、それ単独ではゲルを形成しなかったが、スケトウダラすり身と混合することでゲルを形成した。また官能評価の結果も併せ、本種が新規練り製品原料として有用であることを示した。		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
中村 乙水	東京大学大気海洋研究所	マンボウは潜ってクダクラゲ類を食べ海面で温まる
【論文要旨】 本研究では、マンボウに動物搭載型カメラと体温計を装着して、深い冷水中で体温を保ちながら採餌する生態を明らかにした。マンボウが水温10℃以下である深度100~200mでクダクラゲ類を主に食べていることを発見し、餌を食べる間に下がった体温を海面の温かい水で効率的に回復することを明らかにした。また、体温回復に要する時間を短縮し、採餌時間を長くするマンボウの採餌戦略を明らかにした。		

氏名	所属	論文タイトル
米崎 史郎	国立研究開発法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所	漁業および調査データを活用した三陸沖生態系の長期変動傾向の抽出と構造把握に関する研究
【論文要旨】 海洋生物資源を持続的に利用するために、生物多様性の保全との両立を求められるようになってきている。水産研究も従来とは異なる新たな役割を担うことになり、漁業活動を生態系の中に明確に位置付け持続可能性を探る研究展開が求められる。本研究では三陸沖を対象に、長年収集されている漁業データや、漁業から独立した調査データを用いて、生態系の長期変動傾向の抽出ならびに底魚類を中心とした生態系の構造の把握を検討した。		